一般社団法人 日本カレンダー暦文化振興協会 2025 年の活動報告

片山真人（天文情報センター）

暦文協★01 の活動も気づけばもう 15 年目、早いものです。本年もイベントはすべてハイブリッド形式で行われました。

https://www.rekibunkyo.or.jp/

●暦文協ミニフォーラム

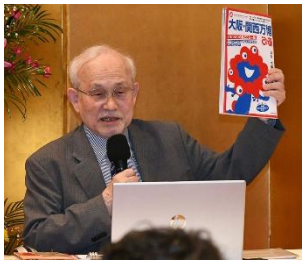
4 月 8 日には北とぴあにて暦文協ミニフォーラムを開催、リモートと会場あわせて約 80 名の参加をいただきました。

今回は開催目前の Expo 2025 大阪・関西万博にちなんで「万博とカレンダー」がテーマ、大阪・関西万博を考える会の座長も務めた★02 中牧弘允理事長の基調講演からスタートしました。

基調講演では、今回の万博の意義・目的から、一世紀半に渡り万博が演出してきた世界の動向・未来のビジョン、大阪 70 年万博の理念、2010 年上海万博の様子などが語られるとともに、万博やパビリオンの紹介など、効果的に使われた各種カレンダーも紹介されました。

パネルディスカッションでは、新日本カレンダー株式会社の宮﨑安弘代表取締役から、大阪 70 年万博の思い出や、カレンダー売り上げと時代の変遷、人口分布の変動など未来社会の在り方もふまえた将来戦略などについてご紹介いただくとともに、万博の提起する問題意識・望ましい未来社会の在り方など、展示に込められた意図を理解し、体験する重要性について議論が続きました。

質疑応答では、これからのカレンダー、日本が初めて参加した 1862 年の万博、今回の万博のおすすめ・レガシーなど、さまざまな質問が飛び交いました。



中牧理事長による基調講演

パネルディスカッションの様子

●第 15 回総会＆講演会

9月4日には東京大学弥生講堂一条ホールにて第 15 回総会＆講演会を開催、リモートと会場あわせて約 130 名の参加をいただきました。

まずは関西学院大学社会学部長の島村恭則教授から「トキ（時）とアイダ（間）の民俗学」と題して、時間という言葉を民俗学的に分析すると、ハレ（非日常）としてのトキとケ（日常）としてのアイダに分かれること、前者は「節」にとって代わられたこと、ハレ・ケ・ケガレのプロセスなどについて、ご講演いただきました。

続くトークセッションでは、東洋運勢学会の三須啓仙会長も交え、魂魄二元論や刻の概念、ハレの日の個人化傾向などをテーマにトークが展開されました。

総会では、事業・会計報告や次期事業計画、とくに事業年度の 1 か月前倒しなどが承認されています。

最後に、産業医科大学の吉田二美准教授から、故岡田芳朗最高顧問の名前がついた小惑星（43753）Okadayoshirou「岡田星」について、背景や特徴、発見の経緯などの説明があり、その後は発見した故古川麒一郎副理事長のご夫人や岡田夫人らご親族も招いて命名記念祝賀会を開催、故人の想い出に花を咲かせました。

島村恭則教授による講演

トークセッションの様子

吉田二美准教授による「岡田星」解説と「岡田星」命名記念祝賀会の様子

一般社団法人
日本カレンダー暦文化振興協会
Japan Association for Calendars and Culture Promotion

●新暦奉告参拝

12 月 3 日カレンダーの日には、明治神宮にて新暦奉告参拝を開催、リモートと会場あわせて約 80 名の参加をいただきました。

参拝は神楽殿前からの参進に始まり、直会殿にて修祓を受け、本殿にて参拝・玉串拝礼、その後神楽殿にて祈願の祈祷、巫女舞の奉納が執り行われました。

参拝の後は、大阪成蹊大学の熊倉一紗准教授から「正月用引札と暦の諸相」と題し、現在の名入りカレンダーの先祖にあたる暦付き正月用引札について、大阪の印刷会社が浮世絵師や日本画家の描いた図像部分を印刷、各地の印刷業者が文字部分を印刷、在地の商店が正月に顧客を個別訪問して無料配布するといった分業システムをご解説いただきました。さらに、正月用引札の図像に見られる特徴や時代背景、商店と顧客のつながりを強め、絵画や暦を通じて顧客のまなざしを集めるなど、引札の果たした役割についてもご紹介いただいています。

続いて、中牧弘允理事長による「暦予報」では、各種周年行事や 2026 年暦の見どころなどが紹介されました。

暦文協では、今後もさまざまな形で活動を続けていく予定です。

参進の様子

熊倉一紗准教授による講演

★01　暦文協：一般社団法人 日本カレンダー暦文化振興協会の略称（国天ニュース 2011 年 10 月号参照）

★02　大阪・関西万博を考える会については、下記記事を参照。
https://www.osaka21.or.jp/publishing/e-book/no132/132_p002.pdf